

はくぶつかんの部屋 2

～博物館ってどんなところ～



皆さん、博物館に足を運ばれた事はありますか？博物館とは、地域の歴史・文化・自然に関する資料を収集・保管して、それを展示し市民の皆様にはわかりやすく発信するための施設です。

博物館は、古代ギリシャの神殿や宝物庫がその源流だという説があり、もともと、西欧の王侯貴族が自らのために珍品・財宝を集めたコレクションの場でした。現在のように解説がつき、教育普及の施設としての活動が行われるようになったのは、フランス革命のさなか、1793年のことです。ルーブル宮殿を美術館として市民に広く展示・公開したことがきっかけとなり、ここから展示という概念が生まれました。それが世界中に広がり、現在の形になりました。沖縄県の博物館の始まりは、石川市（現うるま市）東恩納に所在した沖縄陳列館で、1945年に開館しました。

一口に博物館といっても博物館法という法律で定められた「登録博物館」、それに応じた法制度上の扱いを

つける「博物館相当施設」、博物館法の適用外となる「博物館類似施設」の3つに分類されます。また、「考古系」「自然系」「科学系」などの専門分野にも分かれます。実は、植物園や動物園、「沖縄美ら海水族館」などの水族館も博物館の一つなのです。

さて、宜野湾市立博物館はというと、「考古・歴史・民俗」の歴史系「博物館類似施設」にあたります。発掘資料や宜野湾市のジオラマ（場景模型）、民家など多くのモノが皆様を出迎えてくれます。

ぜひ、この機会に宜野湾市立博物館で本市の歴史に思いをはせてみてはいかがでしょうか…。



▲昔なつかしの民家と道具



▲市立博物館の外観

お問い合わせ

市立博物館 ☎870-9317

茶

ぐわーゆんたく

86

学校の再開 ～コンセット教室～

1945（昭和20）年、米軍は上陸してまもなく、避難民収容所を各地に作りました。その一つ、中北部の避難民収容所となっていた石川で学校（※①）が開されました。いまだ日米攻防戦が激しく展開されていた5月のことです。学校といっても校舎があるわけもなく、青空教室でした。野嵩収容所にもそのような学校らしきものが屋号・富里にありました。

戦後、正式に学校が再開されたのは1946（昭和21）年の「初等教育令」及び「施行規則」が公布されてからのことで、宜野湾村内では同年に三初等学校が発足しました。

無い無い尽くしのなか、教室として多く利用されたのが、払い下げられたコンセット（※②）でした。1946（昭和21）年11月20日付、「コンセット譲渡申請」が宜野湾村長によって知事宛に出されました。これは嘉数区内の部隊が引き揚げた後のコンセット等を嘉数初等学校に利用したいと申請したものです。

その後、1953（昭和28）年4月23日付の沖縄タイムスには大山小中学校からの「コンセット払い下げ陳情」の記事が掲載され、さらに1960（昭和35）年

8月16日付の琉球新報にも「キャンプマシーから、宜野湾村内の各小中学校にコンセットを払い下げた」とあり、戦後15年経ってもコンセットが利用されていたことがわかります。

焼けつくような暑さだったというコンセット教室ですが、そのなかには学べる喜びいっぱいの子どもたちの笑顔が広がっていたことでしょう。



▲1949（昭和24）年コンセット教室を使用していた嘉数小学校生

※① 1945（昭和20）年5月7日に開校された石川学園。現在のうるま市立城前小学校。校内に「戦後教育発祥之地記念碑」が建立されている。

※② 米軍のカマボコ型簡易兵舎。学校の他、病院や役所などにも利用された。

「宜野湾市史」へのお問い合わせ

教育委員会文化課 ☎893-4430